

平成27年度分

泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 27 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	①地域資源を活かした農業振興と創業支援
事業名	中小企業総合支援事業
事業概要	【最終予算額：3,469千円】 【決算額：3,717千円】見込 専門的知識を保有する機関で経営相談を受け、中小企業者のニーズや経営状況により個別に判断し、中小企業者に最も適した支援策を提案する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：創業支援件数							
		KPI：5年間で130社							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	70社					27年度 数値見込
		達成率	—	53.8%					
		②目標事項：創業した件数							
		KPI：5年間で30社							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	20社					27年度 数値見込
		達成率	—	66.7%					
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	—								
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 創業支援については、昨年5月に策定した創業支援事業計画に基づき、商工会議所・日本政策金融公庫・地域金融機関と連携し実施。 融資創業相談以外は、市と商工会議所での創業相談窓口として対応し、HPの開設等、相談しやすい体制を整えた。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 まだまだ、入口部分の創業相談が少ないことから、創業・起業に関する情報発信等を強化していく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	①地域資源を活かした農業振興と創業支援
事業名	インバウンド観光消費喚起事業
事業概要	【最終予算額：28,727千円】 【決算額：21,596千円】 アフターコンベンションの有力なツールとなるショッピングツーリズムの造成に向けて、手ぶら観光推進や、キャッシュレス環境整備、消費税免税店誘致、地域の食材を使ったハラル食の普及などの受入環境の基盤整備やコンテンツの充実を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：新たに雇用を創出する農工商連携または6次産業化を行う企業・団体数							
		KPI：5年間で3社							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	1社					
		達成率	—	33.3%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—						
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	—								
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	インバウンド観光客消費喚起として、食事に関して宗教上制限があるイスラム圏の方を対象とした地元食材を活用したランチボックスの予約販売、泉州タオルに希望する刺繍を入れるサービス、手ぶら観光を推進するため、手荷物の一時預かりや市内宅配サービスなどを行う店舗を、3月にりんくうタウン駅りんくうパピリオ内にオープンした。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】	
		インバウンド（ムスリム観光客）観光客への周知を徹底し、利用者数の増加を図る。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	農林水産課
-----------	-----	-------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	農業等の振興
具体的施策	①地域資源を活かした農業振興と創業支援
事業名	泉佐野産（もん）普及促進事業
事業概要	【最終予算額： 2,484千円】 【決算額： 2,484千円】 泉佐野で収穫された地場野菜や魚介類を活用したオリジナルレシピを創出し、地場産品のブランド化と6次産業化の促進を行う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：新たに雇用を創出する農工商連携または6次産業化を行う企業・団体数							
		KPI：5年間で3社							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	1社					
		達成率	—	33.3%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】		
		担当課評価	27年度において、泉佐野で収穫された地場野菜や魚介類を活用したオリジナルレシピを創出した。	
		<b>B</b>		
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】		
28年度において、このオリジナルレシピを参考に商品化し、泉佐野産（もん）の普及促進を図る。				
委員会意見	【評価等に対する意見】			
	委員会評価			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	①地域資源を活かした産業振興と創業支援
事業名	就労支援カレッジ事業
事業概要	【最終予算額：14,086千円】 【決算額：13,745千円】 相談等から個々の状態や能力に応じた教育訓練カリキュラムを作成し、その職場実習活動等により社会参加や就労体験を通じて、一般就労への移行の支援を行う。就労経験の少ない若年者等への就労支援を行なうことによる労働力の底上げと、農業従事者の担い手不足の解消、農業の6次産業化の促進、さらには都市部から泉佐野市、泉佐野市から弘前市への移住を促進することを目的としている事業

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 交付金先駆的事例事業として内閣府やマスメディアにも紹介され、注目を浴びている事業であり、農業を核に、都市間連携による農業分野に従事する人材育成及び地方移住促進や農業就労者の増加による雇用創出を図る事業として実施し、3名の就農人材を育成できた。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 引き続き、加速化交付金での委託により、当該事業を実施。弘前市のみならず、全国の地方へ職場体験の実施や移住・定住を目指し、取り組む。
委員会意見	委員会評価	【評価等に対する意見】

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	②企業誘致
事業名	企業誘致奨励金事業
事業概要	【最終予算額：60,369千円】 【決算額：45,194千円】 市の発展と雇用の増大を図るなど、市民福祉の向上のため、市内に新たに事業所を建設・設置される方（企業）で、一定条件を満たす場合に奨励金を交付する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：企業誘致奨励金対象企業数							
		KPI：5年後に24社							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	9社	7社					
		達成率	—	29.1%					
		②目標事項：上記企業の新規就業者数							
		KPI：5年後に1,513人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	513人	525人					
		達成率	—	34.7%					
		③目標事項：奨励金を活用した外資系企業の進出件数							
		KPI：5年後に3社							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	1社	1社							
達成率	—	33.3%							

平成27年度	評価（C）	担当課評価	奨励金の対象期間（5年間）が経過したことによる対象企業数の減少はあるものの、産業集積奨励金の対象地域であるりんくうタウンには新規進出企業もあり、今後の対象企業数は増えると予想されるため、ほぼ目標どおりに進捗しているものとする。
		<b>B</b>	
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 当該奨励金は、着手届の提出があった企業にのみ申請書の送付を行っているため、対象となる企業であっても届出がない限りは奨励金の交付はしていない。 より多くの企業に奨励金の活用が増えるよう、現在の周知方法等の工夫を検討。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	③地域産業の競争力強化
事業名	中小企業総合支援事業
事業概要	【最終予算額：3,469千円】 【決算額：3,717千円】見込 専門的知識を保有する機関で経営相談を受け、中小企業者のニーズや経営状況により個別に判断し、中小企業者に最も適した支援策を提案する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：支援企業数							
		KPI：5年後に160社							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	71社	50社					
		達成率	—	31.2%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 平成27年度より、中小企業・小規模事業者の経営のお悩みを解決する「総合診療科」である「よろず支援拠点」を活用し、中小企業者のニーズの応じた支援策の提供や業種に関わらず、創業から製品開発・販路開拓、経営戦略まで、中小企業・小規模事業者の抱える現場の課題に対する総合的なサポートを実施相談による支援事業として取り組みを行った。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 相談場所をまちの活性課で対応し、支援拠点としての充実を図るため、周知等の拡充を図る。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	③地域産業の競争力強化
事業名	インバウンド観光消費喚起事業
事業概要	【最終予算額：28,727千円】
	【決算額：21,596千円】 アフターコンベンションの有力なツールとなるショッピングツーリズムの造成に向けて、手ぶら観光推進や、キャッシュレス環境整備、消費税免税店誘致、地域の食材を使ったハラル食の普及などの受入環境の基盤整備やコンテンツの充実を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：地域内における経済波及効果額							
		KPI：5年後に90億円以上							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	107億6千万					
		達成率	—	119.5%					
		②目標事項：観光客数							
		KPI：5年後に770万人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	530万人	822万人					
		達成率	—	106.8%					
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	インバウンド観光客消費喚起として、食事に関して宗教上制限があるイスラム圏の方を対象とした地元食材を活用したランチボックスの予約販売、泉州タオルに希望する刺繍を入れるサービス、手ぶら観光を推進するため、手荷物の一時預かりや市内宅配サービスなどを行う店舗を、3月にりんくうタウン駅りんくうパビリオ内にオープンした。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】	
		引き続き、インバウンドに特化した受入環境整備を充実させることで、さらなる地域経済波及効果が出るような仕組みに取り組む	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。



平成 27 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	④女性に対する就職相談等
事業名	地域就労支援事業
事業概要	【最終予算額：5,629千円】 【決算額：4,666千円】 働く意欲がありながら雇用や就労を実現できない就職困難者等に対し、地域就労支援事業の活用、相談、資格取得講座への誘導等を行い、一人でも多くの就労の実現に向けて支援をする。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：女性への支援件数							
		KPI：5年間で200人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	110人					
		達成率	—	55.0%					
		②目標事項：上記のうち、就業者数（起業者を含む）							
		KPI：5年後に60人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	4人					
		達成率	—	6.0%					
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	市内3か所にある地域就労支援センターにおいて、就労相談を実施しているが、相談件数は毎年、ほぼ横ばい傾向。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】	
		相談者の状況に応じた、きめ細やかな支援ができるメニューを提供していく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	④女性に対する就職相談等
事業名	女性起業家創業支援事業
事業概要	【最終予算額：1,000千円】 【決算額：0千円】 起業・創業する意欲ある女性起業家に対して、初期費用に対する補助金を交付する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：女性への支援件数							
		KPI：5年間で200人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	110人					
		達成率	—	55.0%					
		②目標事項：上記のうち、就業者数（起業者を含む）							
		KPI：5年後に60人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	4人					
		達成率	—	6.0%					
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 府が主催の女性起業家セミナーを泉佐野市で3回実施。73名の参加者があった。地方創生交付金補正対応による補助金制度を創設し、募集を行ったが短期間であったために（約1ヵ月程度）相談等はあったが、期間内（3月末）に執行することが困難であるなどの理由により交付者がいなかった。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 南海泉佐野駅周辺の中心市街地活性化や空き店舗、インバウンド対策等の政策間連携による新たな事業構築を行い、募集期間にも余裕を持った形で実施予定
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	まちの活性化課
-----------	-----	---------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	④女性に対する就職相談等
事業名	地域雇用創造バンク事業
事業概要	【最終予算額：22,537千円】 【決算額：14,401千円】 大都市圏等に在住するプロフェッショナル人材やスキルアップ等を培う研修を修了した人材を、バンクに登録し、市内の中小企業者等にトライアル雇用することで、安定した雇用につなげていく。地域が必要とする人材を育成・登録し、地域事業者とその人材を雇用マッチングすることにより、地域の雇用創出及び安定雇用を促進する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：女性への支援件数							
		KPI：5年間で200人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	110人					
		達成率	—	55.0%					
		②目標事項：上記のうち、就業者数（起業者を含む）							
		KPI：5年後に60人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	4人					
		達成率	—	6.0%					
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> トライアル雇用数は目標数値を下回っていますが、バンク登録者や人材育成等の人数は初年度ながらも数値を残している。受託事業者もこのようなスキームで行政とタイアップして事業展開するのは初ケースでもあり、継続することでそれぞれの数値を高めていきたい。また、1名は正社員として地元事業者にて雇用が決定した。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 EC（電子商取引）による販路拡大を検討することで、さらなる雇用創出をめざす。
委員会意見	委員会評価	【評価等に対する意見】

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	高齢介護課
基本目標	①安定した雇用を創出する	
基本的方向	人材還流・人材育成	
具体的施策	⑤高齢者の就労支援	
事業名	シルバー人材センター育成事業	
事業概要	【最終予算額：11,880千円】	
	【決算額：11,880千円】 高齢者の雇用の確保を促進するために、シルバー人材センターへの支援を行う。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：会員数							
		KPI：5年後の1,190人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	944人	993人					
		達成率	—	83.4%					
		②目標事項：契約件数							
		KPI：5年後に2,570件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	2,402件	2,435件					
		達成率	—	94.7%					
③目標事項：									
KPI：									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	近年、全体的に会員数及び契約件数ともに伸び悩んでいるため、会員増強に向けた取り組みとして、パンフレット作成やポスティングなどを行っている。伸び悩む理由としては、「高齢者雇用安定法」(平成25年4月1日施行)により、定年退職後の65歳までの雇用継続が可能となったことから、60歳前半の入会者が減少していることなどが原因として考えられる。
	B		
改善 (A)	【28年度における取り組みなど】		
	今後も会員増強のための、パンフレット作成やポスティングに取り組んでいく。		
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	まちの活性化課
-----------	-----	---------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	⑥人材育成・雇用機会の拡充
事業名	地域雇用創造バンク事業
事業概要	【最終予算額：22,537千円】 【決算額：14,401千円】 大都市圏等に在住するプロフェッショナル人材やスキルアップ等を培う研修を修了した人材を、バンクに登録し、市内の中小企業者等にトライアル雇用することで、安定した雇用につなげていく。地域が必要とする人材を育成・登録し、地域事業者とその人材を雇用マッチングすることにより、地域の雇用創出及び安定雇用を促進する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：トライアル雇用数							
		KPI：5年後に50人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	3人					
		達成率	—	6.0%					
		②目標事項：地域雇用創造バンク登録者数							
		KPI：5年後に150人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	60人					
		達成率	—	40.0%					
		③目標事項：人材育成数（研修等参加者数）							
		KPI：5年間で300人							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	—	34人							
達成率	—	11.3%							

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	トライアル雇用数は目標数値を下回っていますが、バンク登録者や人材育成等の人数は初年度ながらも数値を残している。受託事業者もこのようなスキームで行政とタイアップしてこのような事業を展開するのは初めてのケースでもあり、継続することでそれぞれの数値を高めていきたい。また、1名は正社員として地元事業者にて雇用が決定した。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】	
		EC（電子商取引）による販路拡大を検討することで、さらなる雇用創出をめざす。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	人材還流・人材育成
具体的施策	⑥人材育成・雇用機会の拡充
事業名	就労支援カレッジ事業
事業概要	【最終予算額：14,086千円】 【決算額：13,745千円】 相談等から個々の状態や能力に応じた教育訓練カリキュラムを作成し、その職場実習活動等により社会参加や就労体験を通じて、一般就労への移行の支援を行う。就労経験の少ない若年者等への就労支援を行なうことによる労働力の底上げと、農業従事者の担い手不足の解消、農業の6次産業化の促進、さらには都市部から泉佐野市、泉佐野市から弘前市への移住を促進することを目的としている事業

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：相談者数							
		KPI：5年間で250人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	67人					
		達成率	—	26.8%					
		②目標事項：就労体験者数							
		KPI：5年間で150人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	38人					
		達成率	—	25.3%					
		③目標事項：一般就労者数							
		KPI：5年後に25人							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	—	3人							
達成率	—	12%							

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	交付金先駆的事例事業として内閣府やマスメディアにも紹介され、注目を浴びている事業であり、農業を核に、都市間連携による農業分野に従事する人材育成及び地方移住促進や農業就労者の増加による雇用創出を図る事業として実施し、3名の就農人材を育成できた。
	B		
改善 (A)	【28年度における取り組みなど】		
	引き続き、加速化交付金での委託により、当該事業を実施。弘前市のみならず、全国の地方へ職場体験の実施や移住・定住を目指し、取り組む。		
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	都市計画課
-----------	-----	-------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	定住促進の強化
具体的施策	①定住・移住の促進
事業名	定住・移住（住宅総合助成）促進事業、空き家バンク制度
事業概要	【最終予算額： 50,840千円】 【決算額： 24,957千円】
	○住宅総合助成事業・・・本市で居住用の住宅を購入又は建設する方に対して、住宅の抵当権設定登記や所有権保存登記等に要した費用、及び引越費用を助成する。 ○空き家バンク制度・・・本市に定住を希望する方に対して、登録条件を満たした空き家の情報提供当をし市に定住を希望する方に対して、当該住宅を購入または賃貸する場合に、登記費用や引越助成。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：住宅総合助成事業申請件数							
		KPI：5年間で2,285件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	－	104件					
		達成率	－	4.6%					
		②目標事項：空き家バンク登録件数							
		KPI：5年間で295件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	－	28件					
		達成率	－	9.5%					
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	－								

平成27年度	評価（C）	担当課評価	【27年度評価】 平成27年5月からはじまった住宅総合助成事業は、当初は周知不足等もあり、申請件数は伸び悩んでいたが、年度後半は右肩上がりに増加しており、目標は下回っているものの継続して事業を推進していく。 空き家バンク制度については、TV等で紹介されたこともあり、徐々に周知されてきており登録件数も増加していくと思われる。
		B	
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 H28年度は、前年実績から勘案して、住宅総合助成事業200件（予算上）を見込んでいる。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	人権推進課
-----------	-----	-------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	定住促進の強化
具体的施策	②移住を検討している女性や移住女性のための地域交流活動の促進
事業名	市民協働型事業（男女共同参画サポート事業）
事業概要	【最終予算額： 2,409 千円】 【決算額： 2,228 千円】 誰もが各々の個性と能力を発揮できる地域づくりをめざして、市民（グループ）・事業者・教育関係など様々な立場の人びととのパートナーシップにより相談及び市民啓発事業を実施する。男女共同参画社会に向けた、各種講座、グループ支援、相談業務等を実施する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：女性センター年間利用者数							
		KPI：5年後に3,235人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	3,078人	5,302人					
		達成率	—	163.9%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】	市民協働型事業の実施を通じて地域交流活動を促進させることで、新たな利用者層を掘り起こすことができた。センター内にて世代を超えた利用者間の交流が深まり、既存の登録グループへの参加や新たなグループの参加の成果があった。
		担当課評価	
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 今後より一層、誰もが性差に関わりなくのびやかにいきいきと過ごせるようジェンダーの視点を重点的に発信させていく。そのひとつとして、男性参加を促す事業の企画を検討していく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。



平成 27 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しい人の流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口の拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	観光振興事業（まち処運営事業ほか）
事業概要	【最終予算額：60,716千円】   【決算額：60,716千円】見込
	日本背に府観光局から認定された2カ所の外国人観光案内所（観光交流プラザ りんくうまち処・観光情報プラザ 関空まち処）の運営。関西国際空港の玄関都市としての好立地を生かし、国内外の観光客の増加を促すことで、地域内の雇用創出等を含めた経済波及効果のさらなる向上を図る。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：インバウンド観光客数							
		KPI：5年後に300万人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	110万人	210万人					
		達成率	—	70.0%					
		②目標事項：外国人延べ宿泊者数							
		KPI：5年後に80万人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	67万人	102万人					
		達成率	—	127.5%					
		③目標事項：手ぶら観光利用者数							
		KPI：5年後に16,200人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	17,494人					
		達成率	—	107.9%					
		④目標事項：まち処利用者数（外国人利用者数）							
KPI：5年後に20万人									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値	86,697人	107,774人							
達成率	—	53.9%							
平成27年度	評価（C）	【27年度評価】							
		担当課評価	海外からの訪日旅行ブーム及びインバウンド（訪日外国人観光客）が増加の一途をたどっていることから、国の方でも想定している目標数値を上回っている状況であり、本市におきましても、同様に宿泊者数等も増加の一途をたどっている。また、観光客増加に伴い地域での消費喚起も増えつつある。						
	A								
改善（A）	【28年度における取り組みなど】								
	引き続きさらなる観光客数増に向け、インバウンドをはじめとした観光客の受入れ環境整備等に取り組むことで、本エリアの活性化をめざす。								
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	交流型滞在ツアー造成事業
事業概要	【最終予算額：2,000千円】   【決算額：2,262千円】見込
	本市域内を巡る交流型滞在ツアープログラムを造成することで、交流人口の増加、地域経済の活性化を図る。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：地域内における経済波及効果							
		KPI：5年後に80億円以上							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	68億円					
		達成率	—	85.0%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課 地域内にある観光資源を活用した旅行会社と連携したモニターツアーを実施 ツアー名 ちぬうみ創生神楽モニターバスツアー 旅行企画実施 NPO法人 泉州佐野にぎわい本舗 実施日 10月24日（土） コース 4コース 紅花染体験と重要文化的景観日根荘大木村を歩く 秋の犬鳴山参道溪谷を歩く 日根荘園国史跡の国宝多宝塔ご紀貫之伝説を訪ねる
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 今後、モニターツアーを踏まえたビジネスモデルの構築等について検討
委員会意見	委員会評価	【評価等に対する意見】

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	道路公園課
-----------	-----	-------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	観光周遊バス運行事業
事業概要	【最終予算額：2,516千円】 【決算額：2,407千円（見込）】 地域の魅力の向上、交流人口の増加、滞在時間の延長、地域経済の活性化を図る目的で、本市域内にある観光資源や商業施設を巡回するバスを運行する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 観光周遊バスは12月からの運行であったが、目標数値（H28年3月までに1,000人）を上回った。（1,453人）
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 今後も利用者ニーズの把握などに努めていく。
委員会意見	委員会評価	【評価等に対する意見】

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	地方版MICE誘致推進事業
事業概要	【最終予算額：3,024千円】   【決算額：2,262千円】見込 関西国際空港の玄関都市としての好立地を生かし、国際会議等のMICEを誘致・開催することで、地域内の雇用創出等を含めた経済波及効果を生み出し、ひいては都市の競争力・ブランド力向上を図る。

計画(P) ↓ 実施(D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：地方版MICE誘致件数							
		KPI：5年間で2件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	0					
		達成率	—	0.0%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価(C)	【27年度評価】						
		担当課評価	27年度はMICE誘致推進に向けた調査を実施。MICEは、地域経済への波及効果が非常に高く、雇用創出が期待できるツールのひとつに挙げられていることから、国際空港の玄関都市という立地条件にある泉佐野市のポテンシャルを活かすことで、泉佐野市におけるMICE誘致の課題や可能性、マーケティングやターゲットも含めたMICE誘致に向けた戦略策定、MICE誘致した場合における地域経済への波及効果などを測定・分析により、地域経済への効果測定のみならず、地域内の雇用の創出も含、調査した。					
	B							
改善(A)	【28年度における取り組みなど】							
	今後、調査結果を分析し、MICE誘致に向けて本格的に事業を進めて行く。							
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	シティプロモーション推進事業
事業概要	【最終予算額： 千円】   【決算額： 千円】
	空港玄関都市としてのポテンシャルを活かし、地元航空会社等と連携したシティプロモーション等を実施し、市の観光地としての知名度向上や国内・外国人旅行客の集客を図る。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】		
		担当課評価	インバウンドの消費喚起につながるようなプロモーション（LCCでのプレミアム商品券の販売）を実施した。	
		<b>B</b>		
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】	海外プロモーションやパワーブロガー等の招聘等による本市の認知度向上等の取組みについて検討する。	
		【評価等に対する意見】		
	委員会意見	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分

担当課 保健センター

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	外国人にやさしいまちづくり
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進
事業名	国際医療交流の拠点づくり事業
事業概要	【最終予算額： 千円】 【決算額： 千円】
	がん医療や獣医療など地域の医療資源を活かし、海外との交流や医療機能の充実など、国際医療交流の拠点づくりに取り組む。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	特に大きな動きはないが、IGTクリニックでは、がん拠点の医療施設の建設を進めており今年度秋に竣工予定である。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】	
		りんくう総合医療センター及び一般社団法人IMEDIATA（イメディアータ）は、外国人患者が来た場合の通訳での協力を行うとともに、医療面での病院間の連携を行うことにより、国際医療拠点としての役割を果たす。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進
事業名	健康や医療目的の訪日観光促進事業
事業概要	【最終予算額：176千円】   【決算額：176千円】見込
	医療や健康目的での観光客訪日促進に取り組む。関西国際空港の玄関都市として、国際医療交流の推進及び訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進を目的に、りんくうタウン及び泉佐野市域は国から特区認定を受けている。その一環として、国が行う通訳案内士とは別に、特区内限定で通訳案内ができる特区ガイドを育成し、地域内の雇用創出等を含む経済波及効果を生み出し、ひいては都市の競争力・ブランド力向上を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：特区案内士登録者数							
		KPI：5年後に100人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	25人	52人					
		達成率	—	52.0%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】						
		担当課評価	平成23年12月に指定されたりんくうタウン地域の地域活性化総合特区について、関係機関と連携による魅力ある地域づくりについて検討を重ねた。特区案内士登録者数52人の内訳は、英語40人、韓国語2人、中国語10人である。					
		<b>B</b>						
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 引き続き、大阪府等と連携し総合特区の優位性を見出せるよう取り組みを実施していく。						
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	保健センター
-----------	-----	--------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	外国人にやさしいまちづくり
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進
事業名	国際医療サポートセンター事業
事業概要	【最終予算額： 千円】 【決算額： 千円】
	外国人が病院で診療を受ける場合に大きな課題となる医療通訳を多数養成し、域内外の医療機関との遠隔通訳ネットワーク化により、在住外国人はもとより、訪日外国人の医療サービスを充実し、訪日旅行の安全・安心をサポートする。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：医療通訳育成数							
		KPI：5年後に200人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	75人	77人					
		達成率	—	38.5%					
		②目標事項：遠隔医療通訳ネットワーク医療機関数							
		KPI：5年後に50機関							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	1機関	1機関					
		達成率	—	2.0%					
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】						
		担当課評価	27年度は阪大病院国際医療センターの主催で医療通訳養成講座を開催。講座のうち現地実習をりんくう総合医療センターが担うことで、育成に向けた取り組みを引き続き行っている（実習修了者21名）。遠隔医療通訳ネットワーク医療機関数については、もともとTV会議システムを各医療機関に設置し遠隔通訳を行う計画であったが、通信網や技術面、費用面の課題がある。27年度はi-padを活用して近隣病院との遠隔通訳を実施した。					
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】						
		医療通訳講座については、28年度においても現地実習を引き受ける予定である。その内修了者に対して、本センターで活躍していただけるように働きかけていく。遠隔通訳に関しては、本センターの通訳件数は訪日外国人の増加に合せて、26年度862件に対し、27年度は1,402件と飛躍的に伸びている。そのため夜間救急に病院を利用する外国人患者数も増え、時間外の対応が喫緊の課題である。また平成28年4月より民間事業者と連携し、インターネット回線及び専用端末を使用したテレビ会議システムによる通訳サービスを実施している。28年度以降の新たな総合特区計画の進捗に合せて、目標値を変更する予定である。						
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。



平成 27 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進
事業名	ホスピタリティ・地域魅力の向上事業
事業概要	【最終予算額： 千円】   【決算額： 千円】
	訪日外国人が空港に最初に触れ、最後に訪れる地域として、外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上を図り、外国人の訪日促進につなげる。りんくうタウン及び泉佐野市域は国から特区認定を受けており、その事業の一環として、国が行う通訳案内士とは別に、特区内限定で通訳案内ができる特区ガイドを育成することで、地域内の雇用創出等を含めた経済波及効果を生み出し、ひいては都市の競争力・ブランド力向上を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：特区案内士登録者数							
		KPI：5年後に100人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	25人	52人					
		達成率	—	52.0%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】							
		担当課評価	平成23年12月に指定されたりんくうタウン地域の地域活性化総合特区について、関係機関と連携による魅力ある地域づくりについて検討を重ねた。特区案内士登録者数52人の内訳は、英語40人、韓国語2人、中国語10人である。						
		<b>B</b>							
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 広報等により、より一層の周知に努め、研修等の実施により登録者の増加に努める。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	まちの活性課
-----------	-----	--------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	①若い世代の経済的安定
事業名	地域就労支援事業（再掲）
事業概要	【最終予算額：5,629千円】 【決算額：4,666千円】 働く意欲がありながら雇用や就労を実現できない就職困難者等に対し、地域就労支援事業の活用、相談、資格取得講座への誘導等を行い、一人でも多くの就労の実現に向けて支援をする。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：若者（20～34歳）の就業率							
		KPI：5年後に77%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	67.0%	—					国勢調査結果による
		達成率	—	—					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 市内3か所にある地域就労支援センターにおいて、就労相談を実施しているが、相談件数は毎年、ほぼ横ばい傾向。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 相談者の状況に応じた、きめ細やかな支援ができるメニューを提供していく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	保健センター
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	
事業名	不妊治療費助成事業	
事業概要	【最終予算額：8,000千円】 【決算（見込）額：3,876千円】	
	不妊・不育治療を受けた夫婦の経済的な負担を軽減するため、検査や治療に要する費用の一部を助成する。夫婦合算の医療費の自己負担額の2分の1で、1カ年度5万円を上限とし、通算6年度まで助成する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：不妊治療費助成対象出生件数							
		KPI：5年間で100件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	3件					
		達成率	—	3%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】	
		担当課評価	初年度の取り組みであり、このまま継続実施していく。
		<b>B</b>	
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】	
		市民に広く、理解しやすい広報に努めていく。	
	委員会意見	【評価等に対する意見】	
委員会評価			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	保健センター
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	
事業名	母子保健事業	
事業概要	【最終予算額：105,392千円】 【決算（見込）額：102,610千円】 妊産婦・乳幼児の健康の保持増進を図るため、健康診査や保健指導を行う。また、安心して妊娠・出産・子育てができるように相談支援等を行う。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】	
		担当課評価	従来から実施してきた事業で、今後も子育て支援・児童虐待予防などを充実させていく。参考として、平成26年度の実績として、妊婦健診1,246人、乳児一般健診643人、乳児後期健診693人、4ヶ月健診732人、1歳6ヶ月健診729人、3歳6ヶ月健診817人、2歳歯科健診689人、経過観察健診278人、精密健診42人となっている。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】	
		平成28年度から、産後の最も不安の高まる時期である産後2週間時に、産婦の心身の状況にに応じて助産師等が対応する「産後2週間サポート事業」を医療機関委託で実施する。市民の利便性を高めるために、近隣市町と広域的に実施する。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	保健センター
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	
事業名	乳児家庭全戸訪問事業	
事業概要	【最終予算額：2,538千円】 【決算（見込）額：2,034千円】 子どもの健やかな成長と保護者の子育てを支援するため、生後4か月までの乳児のいる家庭を助産師等が訪問し、育児に関する情報提供や乳児の体重測定などを行う。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：																								
		KPI：																								
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>現状値</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>31年度</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>数値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考	数値								達成率	—						
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考																	
		数値																								
		達成率	—																							
		②目標事項：																								
		KPI：																								
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>現状値</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>31年度</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>数値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考	数値								達成率	—						
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考																	
		数値																								
		達成率	—																							
③目標事項：																										
KPI：																										
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>現状値</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>31年度</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>数値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考	数値								達成率	—								
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考																			
数値																										
達成率	—																									

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 今後も継続して実施していく。平成27年度訪問実績：759件。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 産後2週間サポート事業などと連携しながら、内容の充実を図る。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	子育て支援課
-----------	-----	--------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
事業名	養育支援訪問事業
事業概要	【最終予算額：468千円】 【決算額：220千円】 養育支援が特に必要であると判断した家庭に対し、助産師又は専門的知識及び経験を有する子ども家庭サポーター協議会の会員が、その居宅を訪問し、養育に関する指導、助言等を行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 支援が必要な家庭に適切な支援を行うことにより、育児不安の解消、妊娠出産時の負担軽減等に繋がっており、また、児童虐待の未然防止が図られている。 (平成27年度実績) 対象家庭：17戸、訪問回数：93件
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 支援員を増員し、体制の充実を図る。また、適切な相談に対する傾聴、助言及び指導ができるよう支援員のスキルアップ研修を年に2回実施することで、養育支援訪問事業の充実を進める。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	人権推進課
-----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
事業名	総合相談事業（行政等相談事業（行政相談を除く）相談事業、男女共同参画サポート事業）
事業概要	【最終予算額：22015千円】 【決算額：21957千円】 外国人やハイリスク妊婦、障害のある人等への医・食・住に関する生活情報の提供をはじめ、出張相談や時間外相談、通訳等の同行など、総合相談機能の充実を図り、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進める。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：総合相談件数							
		KPI：5年後に3,080件/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	2,735件	2,800件					27年度 数値見込み
		達成率	—	90.9%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	担当課評価	生活福祉課や子育て支援課・保健センター等からの相談依頼により、多数の複雑な相談ケースに対応してきた。特に妊産婦や乳幼児、未成年者、精神疾患、生活困窮者、ホームレス等の課題を抱える方や、DV、虐待被害者等ほぼ全件について適切に対応したと思われる。また、定住外国人の母子等の相談も非常に多くなり、今期から「外国人のための相談」等の定期開催（共催）により、相談窓口の周知に努めた。さらに、住基支援相談等も格段に増え、警察署との連携を円滑に図り、安全・安心を第一に対応してきた。
		<b>B</b>	
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 相談の初期インテークが非常に重要であるので、今後も相談員のスキルアップを図るとともに、障害者差別解消法やマタニティ・ハラスメント等、増えつつ新たな課題に対しても、適切に迅速に対応していけるよう、相談事業連絡会議の充実や職員研修、民間支援機関との連携に注力していきたい。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	障害福祉総務課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	
事業名	地区福祉委員会活動支援（ふれあいのまちづくり事業）	
事業概要	【最終予算額： 千円】 【決算額： 千円】	
	地域において子育て世帯が孤立することなく、子育てに関する相談や親子の仲間づくりを目的とした子育てサロン活動（地区福祉委員会主催）の支援を行う。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：子育てサロン実施箇所							
		KPI：5年後に15か所							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	15か所	15か所					
		達成率	—	100.0%					
		②目標事項：子育てサロン開催回数							
		KPI：5年後に340回/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	316回/年	集計中					
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 子育てサロンは、前年と同様の箇所で、概ね同回数の開催ができた。サロンの開催により、子育て中の親子が参加し、地域のボランティアなどと一緒に交流活動を行うことで、子育て中の親子が地域で孤立してしまうことを防止することができた。また、様々な子育ての悩みなどを相談する場にもなり、思い悩んで子どもへの虐待に陥ってしまうことを防止することにもつながっている。特に近年では、若い子育て世帯の転入が多い地域もあり、そのような地域では、子育てサロンの開催効果は非常に大きい。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 今後は、現状の実施箇所での次の担い手育成と併せて、他の子ども関連施策との連携も図っていくことで、活動の幅をより充実させていくことが求められる。また、本当に支援を必要とされる人がサロンへ参加できるよう、参加しやすい環境づくりの支援を行っていくことも必要である。このようなことも踏まえて、市としては、引き続き、事業の周知と参加促進及び運営支援を行っていく。
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。



平成 27 年度分	担当課	子育て支援課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実	
事業名	こども医療費助成事業	
事業概要	【最終予算額：185,934千円】	
	【決算額：186,640千円】 小学4年生までの通院、中学3年生までの入院に係る医療費の一部を助成する。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：こども医療費助成対象者数（通院）							
		KPI：5年後に13,989人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	7,915人	9,019人					
		達成率	—	64.5%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	府下では、中学3年生に至るまでの対象者年齢の引き上げを実施している市町村が多数あり、今後もさらなる事業拡大（対象者の年齢引き上げ）は必要となる。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】	
		4月より、通院助成についても、小学4年生から中学3年生まで対象年齢の引き上げを行い、入通院ともに中学卒業年度末までの助成が可能となり、保護者の負担の一層の軽減を図ることができる。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	子育て支援課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実	
事業名	ひとり親家庭医療費助成事業	
事業概要	【最終予算額：80,061千円】	
	【決算額：78,192千円】 ひとり親家庭における18歳の年度末までの児童及びその児童を養育する親の入通院に係る医療費を助成する。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> ひとり親家庭の医療費の一部を助成することにより、ひとり親家庭の健康保持や生活の安定が図られている。 (平成27年度実績) 助成件数：29,734件。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 引き続き、対象者の医療費の負担軽減につながるよう、適切な周知案内に努める。
委員会意見	委員会評価	【評価等に対する意見】

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分

担当課 子育て支援課

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	幼児教育・幼児保育
事業概要	【最終予算額：2,112,588千円】 【決算額：2,085,961千円】 教育または保育を必要とする児童に対し、質の高い教育・保育を行い、待機児童数ゼロを堅持する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b>
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】
		引き続き、待機児童数ゼロを堅持する。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	子育て支援課
-----------	-----	--------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	地域における子育て支援サービス
事業概要	【最終予算額：12,295千円】
	【決算額：12,009千円】 地域子育て支援拠点事業（地域子育て支援センター）やファミリーサポートセンター事業など、在宅で保育を行う家庭を含むすべての子育て家庭に対して、利用者のニーズを踏まえながら必要な支援を行う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 地域住民と子育て家庭の交流・連携を図る講座や催し等を実施し、地域における子育て支援を推進する。 （平成27年度実績）地域子育て拠点事業 すえひろ保育園 利用者 619組 相談数30件 つくしんぼ 利用者5,016組 相談数39件 ファミサボ分 講座件数：78件 参加者数：442人（おとな） 370人（こども）
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 引き続き、利用者のニーズを踏まえながら必要な支援を行う。
委員会意見	委員会評価	【評価等に対する意見】

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実	
事業名	放課後児童対策事業	
事業概要	【最終予算額：119,996千円】	
	【決算額：119,484千円】 保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に、遊びや生活の場を提供し、平成27年度からは新たに学びのプログラムを導入している。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】						
		担当課評価	保護者就労等で昼間家庭にいない小学校に就学している児童（5月1日基準日時点登録児童数：898人）に対し、遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図ることができた。 また、学習支援プログラムを取り入れたことにより、学習意欲を醸成することができ、併せて宿題時間の確保を行うことができた。					
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】						
		27年度は当該事業を業務委託した初年度でもあり、学習支援プログラムの実施内容について、市教委と受託事業者との調整や保護者が希望する実施内容とのギャップに課題があった。28年度においては、学習支援プログラムが実施できる内容について受託事業者から保護者に対し、より説明していくことや、市教委側のねらいを明確にしたうえで、受託事業者が実施する内容をさらに精査していく必要がある。また、大木小学校にて留守家庭児童会を開始する。						
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	教育総務課
-----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	安心安全な小学校給食事業（アレルギー対応食提供）
事業概要	【最終予算額：1,144千円】 【決算額：28千円】 従来の食物アレルギー対応（乳・卵）に加え、副食に乳または卵が含まれる場合に主食を食べ易くすることを目的として、副食（佃煮類やジャム等）を提供する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： アレルギー対応率							
		KPI： 5年後に100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	72.7%	67.8%					
		達成率	—	67.8%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	担当課評価	【27年度評価】 小学校給食では乳・卵の食物アレルギーを持つ児童が多いと認識しているため、副食に乳・卵を含む献立を控えている傾向にあります。よって、平成27年度2学期からの実績で2～3（回/月）程度、補食を提供している状況です。平成27年度の補食に関する利用実績や学校現場の意見を集約し、事業の分析を行いたいと考えます。
		C	
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 平成27年度と同様に補食の種類も模索しながら改善を図りたいと考えます。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	教育総務課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実	
事業名	安心安全な中学校給食事業（アレルギー対応食提供）	
事業概要	【最終予算額：924千円】 【決算額： 21千円】	
	従来の食物アレルギー対応（乳・卵）に加え、副食に乳または卵が含まれる場合に主食を食べ易くすることを目的として、副食（佃煮類やジャム等）を提供する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： アレルギー対応率							
		KPI： 5年後に100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	43.5%					
		達成率	—	43.5%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】	
		担当課評価	中学校給食では小学校給食に比べると少数ではあるが、乳・卵の食物アレルギーを持つ生徒が存在するため、副食に乳・卵を含む献立を控えている傾向にあります。よって、平成27年度2学期からの実績で2～3（回/月）程度、補食を提供している状況です。
		<b>C</b>	平成27年度の補食に関する利用実績や学校現場の意見を集約し、事業の分析を行いたいと考えます。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 平成27年度と同様に補食の種類も模索しながら改善を図りたいと考えます。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	保健センター
-----------	-----	--------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	泉州広域母子医療センターの充実
事業概要	【最終予算額：30,418千円】 【決算額：30,418千円】 平成20年4月より、りんくう総合医療センター産婦人科と市立貝塚病院の産婦人科をひとつの組織として統合し、りんくう総合医療センターは「周産期センター」、市立貝塚病院は「婦人科医療センター」として、泉州地域の産婦人科医療を担う拠点病院として運用している。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b>
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】
		NICU（新生児集中治療室）等を適切に運用することにより、ハイリスク出産、合併症妊婦、疾病新生児、早期産児等を積極的に受け入れる。さらに、救命救急センターとの連携強化や地域医療機関と役割分担をたうえて普通分娩も積極的に受け入れ、安定した運営に努める。また、妊産婦食やお祝い膳を見直すとともに出産祝いの品を充実させ、利用者の満足度向上を図る。ドラマ「コウノドリ」のモデルとなった産婦人科部長 荻田和秀医師のJAZZピアノ演奏を含む市民講座を開催し、広く地域住民に周産期医療の現状などを知ってもらう機会をつくる。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。



平成 27 年度分	担当課	保健センター
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	地域医療の充実	
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実	
事業名	泉州南部初期急病センターの充実	
事業概要	【最終予算額：51,358千円】 【決算（見込）額：51,125千円】 泉州医療圏南部地域における初期救急施設として、平成26年4月より、りんくうタウンにおいて休日における急病患者に対する診療（内科・小児科）を行っている。泉州南部地域における休日等の一次救急医療供給体制を確保する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値								
達成率	—							

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 平成26年4月に移転開設を行ない、立地や駐車台数の大幅増など通院環境が整備されたことも影響し、患者数が急増した。インフルエンザ流行期には、診療時間内に診察を終えることが困難な診療日が多くなるも、関係団体等の協力を得て、臨時的に体制を強化するなどし、安定した一次救急医療供給体制を確保してきた。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】
		泉州地域は、平日夜間の一次救急医療供給体制が未整備である。これは、泉州南部初期急病センターにおいては、従事スタッフの確保が困難なことが主な要因である。この案件は長年の懸案事項であったが、調整の結果、関係団体の協力により、ようやく、平日夜間（20時から23時）の一次救急診療を1日間（木曜日）実施できる運びとなった。6月より開始予定。今後も、その他平日夜間の運営について、引き続き調整していくこととなる。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価 	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	ICT活用教育推進事業	
事業概要	【最終予算額：4,116千円】	
	【決算額：3,109千円】 市内小中学校に段階的にPCやタブレット等の環境の整備を行うとともに、教職員がICT機器の特性を理解し、授業において効果的に活用できる環境をつくることにより、よくわかる授業づくりと学力の定着・向上をめざす。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：タブレット等基本操作の習得率							
		KPI：5年後に100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	95.0%					
		達成率	—	95.0%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	タブレット導入時にICT支援員を派遣し、教職員への支援と授業での活用サポートをきめ細かく行ったことにより、児童のタブレットの基本操作習得は当初の予定よりも早いと認識している。また、児童がタブレットを使って自ら学ぼうという意欲も高まり、授業での活用の幅が広がりつつある。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】	
		新入生への基本操作の指導及び新転任の教員への重点的な支援を行い、学校全体でタブレットを活用した特色ある教育活動を展開する。また、タブレットの操作習得に留まらず、パソコン教室とも連動したICT教育を実施する。さらに当該校における成果を市内の学校へ広げられるよう取組む。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	泉佐野まなびんぐサポート事業	
事業概要	【最終予算額：11,717千円】 【決算額：8,345千円】 子どもの学びの状況等に応じたきめ細かな指導や支援を行うことにより、子ども一人ひとりの学力・体力向上を図るため、各学校の取り組みに対し、人的支援を行う。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：学習意欲の改善							
		KPI：5年後に100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	80%	96.2%					
		達成率	—	96.2%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	退職教員や学生ボランティア等の地域人材を活用して、学校が主体的に取り組む放課後学習やクラブ活動を支援した。 学習：登録者58名、配置人数のべ70名・実人数46名、実施回数 小学校397回・中学校142回 クラブ：登録者7名、配置人数6名、実施回数141回（2月末現在）
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 放課後学習は定着しているものの学校によって参加児童生徒数にばらつきがあり、学習意欲改善にどのように成果があったかを検証する。また、プログラムの改善や参加の呼びかけなど事業を効果的に実施するための方策を市教委と学校が連携して検討し、実施する。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	泉佐野まなびんぐサポート事業	
事業概要	【最終予算額：8,291千円】 【決算額：4,007千円】	
	子どもの学びの状況等に応じたきめ細かな指導や支援を行うことにより、子ども一人ひとりの学力・体力向上を図るため、各学校の取り組みに対し、人的支援を行う。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善							
		KPI：「運動が嫌い」5年後に小5：9.1%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	11.7%	11.8%					
		達成率	—	77.1%					
		②目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善。							
		KPI：「運動が苦手」5年後に小5：21.2%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	23.7%	21.9%					
		達成率	—	96.8%					
③目標事項：									
KPI：									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 体力向上プログラム推進校児童を日本体育大学に派遣し、スポーツ交流を実施したほか、各学校における児童・生徒の体力向上をめざす取り組みに対して、大阪体育大学との協定に基づき教員や学生を派遣した。特に、上之郷小学校においては体育の授業を改善するための指導を受けたり、学校での日常的な運動の取り組み（縄跳び・ボール運動・鉄棒等）の協力を得たりという活動が実を結び、大阪府内約1,000校の中から体力づくり優良校として表彰された。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 27年度は初年度でもあり、人的支援を希望する学校へある程度幅広く派遣することができたが、28年度においては、市教委側の目標や計画を一層明確にしたうえで、学校が実施する内容をさらに精査し、予算を効果的に投入していくことが必要である。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	泉佐野まなびんぐサポート事業	
事業概要	【最終予算額：8,291千円】	
	【決算額：4,007千円】 子どもの学びの状況等に応じたきめ細かな指導や支援を行うことにより、子ども一人ひとりの学力・体力向上を図るため、各学校の取り組みに対し、人的支援を行う。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善							
		KPI：「運動が嫌い」5年後に中2：15.0%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	18.7%	18.2%					
		達成率	—	82.4%					
		②目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善							
		KPI：「運動が苦手」5年後に中2：34.2%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	35.2%	36.4%					
		達成率	—	93.9%					
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	体力向上プログラム推進校児童を日本体育大学に派遣し、スポーツ交流を実施したほか、各学校における児童・生徒の体力向上をめざす取り組みに対して、大阪体育大学との協定に基づき教員や学生を派遣した。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】	
		27年度は初年度でもあり、人的支援を希望する学校へある程度幅広く派遣することができたが、28年度においては、市教委側の目標や計画を一層明確にしたうえで、学校が実施する内容をさらに精査し、予算を効果的に投入していくことが必要である。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	泉佐野市の未来を創る教育事業	
事業概要	【最終予算額：14,091千円】 【決算額：12,595千円】	
	全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、重点支援小学校への支援策として「学力向上アドバイザー」を配置するなど、市域全体の学力向上を図る。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標 事項・ 進捗 状況	①目標事項：全国学力・学習状況調査（小学校 算数）結果の改善							
		KPI：5年後に全国平均（全国平均正答率との差が0）							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	-2.4%	-3.0%					
		達成率	—	0%					
		②目標事項：全国学力・学習状況調査（小学校 国語）結果の改善							
		KPI：5年後に全国平均（全国平均正答率との差が0）							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	-3.1%	-4.75%					
		達成率	—	0%					
③目標事項：									
KPI：									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成 27 年度	評価 (C)	担当課 評価	【27年度評価】 退職教員の人材を活用して、市全体の学力向上と各校の研究を推進するための児童・生徒の学力向上、教職員の指導力等の向上や保護者への指導・助言を行った。学力支援コーディネーター：1名 学力向上アドバイザー：2名 学力向上アドバイザー等が支援を行っている学校については、一部の科目で改善が見られたが、市域全体での正答率の低減により、全体の数値が前年度を下回った。
		C	
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 他の事業で行っている、放課後学習のまなびんぐサポートや平成27年度より実施している算数サポートなどの事業を組み合わせ、市域全体の学力向上を図る。	
委員会 意見	【評価等に対する意見】		
	委員会 評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	学校教育課
-----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	学校教育の充実
具体的施策	⑤国際交流の推進
事業名	モンゴル国トゥブ県との友好交流事業（泉佐野市の未来を創る教育事業）
事業概要	【最終予算額：4,281千円】 【決算額：3,514千円】
	平成25年7月にモンゴル国トゥブ県と友好交流の覚書を締結したことにより、本市の中学生が現地を訪問し、遊牧民の生活を学び、日本の遊びを紹介するなど友好の絆を深めている。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：モンゴル国友好交流参加者数							
		KPI：5年間で50人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	10人	10人					達成率は累積で算出
		達成率	—	40%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 中学生がモンゴルの雄大な自然の中で暮らす遊牧民の子どもと交流し、泉佐野市の学校の様子や日本の伝統的な遊びを紹介した。言葉が通じなくても気持ちを伝えられることや日本とは違う暮らしや文化を理解することの大切さを学んだ。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 トゥブ県庁との連携・協力を密にし、現地での交流内容を充実させる。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	⑤国際交流の推進	
事業名	青少年海外研修事業	
事業概要	【最終予算額：7,877千円】 【決算額：7,304千円】	
	青少年をオーストラリア・グリーンズランド州サンシャインコーストへ派遣し、外国の言語や文化を学ぶとともに、ホームステイや学校・高齢者施設訪問など現地の人々との交流を通して、豊かな国際感覚を身に付けた人材の育成に努めている。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：青少年海外研修派遣人数							
		KPI：5年間で50人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	10人	10人					達成率は累積で算出
		達成率	—	40%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】						
		担当課評価	高校生から大学生までの青少年10名を18日間派遣した。現地では毎日英語研修を受けるとともに、学校や高齢者が集うコミュニティセンターを訪問し、泉佐野市や日本文化を紹介した。また、ホームステイでは、異なる文化の中で生活することにより多様な価値観を学んだ。					
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】						
		英語研修について、語学学校でのレッスンだけでなく、新たに体験型のプログラムを導入し、自ら考え発信する力を養う。						
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。



平成 27 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	⑤国際交流の推進	
事業名	文化交流事業（国際交流推進事業）	
事業概要	【最終予算額：1,889千円】 【決算額：1,732千円】	
	子どもたちが自分たちの郷土の良さを再発見するとともに、海外への見識を広げる機会とする小中学生の交流事業を実施する。平成26年度は絵画交流事業（派遣・受入）を実施したが、平成27年度は英語教育推進校児童派遣事業を実施した。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：英語教育推進校児童生徒派遣人数							
		KPI：5年間で10人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	2人	3人					達成率は累積で算出
		達成率	—	50.0%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】	
		担当課評価	英語教育推進校である長南小学校5年生児童3名をオーストラリア・サンシャインコーストへ派遣した。英語レッスンとホームステイ体験を実施し、異なる言語・文化の中で生活することにより、日本と外国との違いに気づき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする力を養った。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】	
		小学生の海外派遣は、体力的・精神的な負担を考慮したプログラム作りが必要になるため、28年度においては中学生の派遣とする。派遣者の選考について、面接審査を取り入れ、積極性やコミュニケーション能力なども加味した採点を行う。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	⑤国際交流の推進	
事業名	マラソン交流事業（国際交流推進事業）	
事業概要	【最終予算額：1,889千円】	
	【決算額：1,732千円】 生涯にわたってスポーツを楽しむ人が増加する中、マラソン大会への参加を中心とした社会人の国際交流を実施する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：マラソン大会派遣（招聘）人数							
		KPI：5年間で10人（15人）							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	2（3人）	2（3人）					達成率は累積で算出
		達成率	—	40%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】	
		担当課評価	【派遣】サンシャインコーストマラソン大会へ市民ランナー2名（男女各1名）を派遣した。 【招聘】第23回泉州国際市民マラソン大会に参加する海外友好都市ランナーをモンゴル国トゥブ県から1名、オーストラリア・サンシャインコーストから男女各1名の合計3名招聘し、大会出場と併せて市長表敬訪問、市内観光などの実施により友好都市交流を推進した。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】	
		【派遣】サンシャインコーストマラソン大会主催者からは派遣者を増やしてほしいという要望があるが、当面は現状維持の方向で継続実施する。 【招聘】現状の人数を招聘できるよう、泉州国際市民マラソン大会主催者に要望していく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	人権推進課
-----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	男女共同参画社会づくりの推進
具体的施策	⑥仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の啓発
事業名	自己啓発事業等の実施（市民対象）
事業概要	【最終予算額： 2,409 千円】 【決算額： 2,228 千円】 男女共同参画の視点に基づく各種講座や自己啓発事業を開催するとともに、相談体制の充実を図る。男女共同参画社会に向けた、各種講座、グループ支援、相談業務等実施。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：自己啓発事業実施回数（市民）							
		KPI：5年間で20回							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	7回					
		達成率	—	35.0%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 豊かで生き生きとした地域づくりをめざし、ワーク・ライフ・バランスを啓発できるよう幅広い世代が参加できるよう様々なジャンルでの事業を実施できた。限られた財源のなか、交付金事業の受託・他機関との共催等の工夫を凝らせた。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 引き続き、ワーク・ライフ・バランスが啓発できるよう、男女がともに参加できる事業を展開していく。特に、子育て世代を支援できる講座やシニア世代の男性層のセカンドライフの充実を図る事業の企画を図っていく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	まちの活性化課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	男女共同参画社会づくりの推進	
具体的施策	⑥仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の啓発	
事業名	セミナーや啓発事業等の実施（企業、事業所対象）	
事業概要	【最終予算額： 千円】 【決算額： 千円】	
	経営者、管理者の意識改革を目的としたセミナーや研修を開催する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：セミナー等の実施回数（企業）							
		KPI：5年間で50回							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	0					
		達成率	—	0.0%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】	
		担当課評価	平成27年度は、啓発パンフレットの配布などを中心に取り組んだ。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】	
		庁内関係課と連携しながら、取り組んでいく。	
	委員会意見	【評価等に対する意見】	
		委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	子育て支援課他関係課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	⑦出会いの支援	
事業名	婚活イベント等の共催・後援	
事業概要	【最終予算額：1,445,1千円】（繰越）   【決算額： 千円】	
	関係団体等が開催する婚活イベントとの共催や後援を行い、広く情報提供等の支援を行う。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：婚活イベントとの共催等件数							
		KPI：5年間で10件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	0					
		達成率	—	0.0%					
		②目標事項：セミナー・啓発事業等の実施回数							
		KPI：5年間で10回							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	0					
		達成率	—	0.0%					
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>D</b>
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 上記交付金の活用は不採択となったが、一般財源により、今後、婚活イベント実施団体への委託等を実施する。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	道路公園課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	①交通ネットワークの整備	
事業名	コミュニティバス無料化事業	
事業概要	【最終予算額：2,068千円】	
	【決算額：2,068千円（見込）】 地域の生活拠点を運行するコミュニティバスを無料化することにより、交通弱者の社会参加等を促進するとともに、通勤・通学等の経費減により転入促進を図る。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：コミュニティバス利用者数							
		KPI：5年後に111,000人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	68,500人	99,747人					27年度 数値は見込
		達成率	—	89.9%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】	
		担当課評価	コミュニティバスは10月からの無料化であったため、目標数値に達していないが、通年ベースでは目標を上回る見込みである。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】	
		「広報いずみさの」の平成28年6月号でバス時刻表を全戸配付し、さらなる利用促進を図る。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	政策推進課
-----------	-----	-------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	都市基盤の再構築
具体的施策	②時代に合った行政サービスの実現
事業名	近隣市町との事務連携、権限移譲
事業概要	<p>【最終予算額： 千円】 【決算額： 千円】</p> <p>平成25年4月から、泉佐野市・泉南市・阪南市・熊取町・田尻町・岬町における福祉分野の広域連携を目的に「広域福祉課」を共同で設置し、社会福祉法人の認可事務等10事務を共同で処理している。これまで取り組んできた消防や福祉業務の広域連携など、地域の特性に応じた近隣自治体の広域連携をさらに強化するとともに、民間活力の導入、ICTの推進、権限移譲の推進など、行政サービスの向上を図るものである。</p>

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：広域連携事務数							
		KPI：5年後に55事務							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	40事務	40事務					
		達成率	—	72.7%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】						
		担当課評価	平成27年度中に規約の締結を予定していた15事務のうち、農林分野12事務及保健分野2事務について、規約を平成27年度中に締結することができたが、規約の性質上、平成28年4月からの取扱いになるため、平成28年度に反映するものである。（平成28年度から54事務）					
	B							
改善 (A)	【28年度における取り組みなど】							
	残る1事務については、首長レベルで折り合いがつかない状態であるが、早い段階での合意を目指すものである。また、権限移譲以外の市町独自事務についても、共同化できるものは実施していく。							
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	総務課
-----------	-----	-----

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	都市基盤の再構築
具体的施策	②時代に合った行政サービスの実現
事業名	公共施設等の耐震化・改修事業など
事業概要	<p>【最終予算額：377,968千円】 【決算額：331,512千円】</p> <p>公共施設等総合管理計画を策定し、長期的視点に立った更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行うことにより、公共施設等の最適な配置を実現する。</p> <p>庁舎耐震改修工事等を27・28年で施工中。</p> <p>公共施設等総合管理計画を27・28年で業務委託して策定中。</p>

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	庁舎耐震改修工事等を27年分を予定どおりに施工した。公共施設等総合管理計画の策定については、27年分の業務委託を予定通り施行した。公共施設再配置計画の策定は完了した。
	B		
改善 (A)	【28年度における取り組みなど】		
	庁舎耐震改修工事の施行を28年引き続き施工、平成28年10月完成予定。公共施設等総合管理計画策定業務を28年度も継続し、平成29年2月に策定完了予定。		
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。



平成 27 年度分

担当課 市民協働課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保
事業名	草の根防災訓練（災害対策事業）
事業概要	【最終予算額：16,047千円】
	【決算額：12,485千円】 地域の団体が、市の提示する訓練メニューから訓練内容を選択して実施する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：自主防災組織率							
		KPI：5年後に97%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	77.41%	81.6%					
		達成率	—	84.1%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 B 草の根防災訓練も各自主防災組織で年間行事として定着してきた。平成27年度末現在で、81町会中62町会で結成。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 新たに市民防災の日の制定や大防災訓練を実施し防災意識の高揚を促す。また、大防災訓練に参加した自主防災組織への補助金を増額し防災訓練の機運を高め、活動の促進を図る。
		【評価等に対する意見】
	委員会意見	委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	市民協働課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保	
事業名	女性消防団員の採用	
事業概要	【最終予算額：1,888 千円】 【決算額：1,229 千円】	
	市民の安全・安心を守るため、平常時は防火・防災知識の普及啓発や応急救護の指導、災害発生時は救護活動や避難所運営の支援等の後方活動を行い、女性特有のニーズや心づかいを地域の防災活動に生かす。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：消防団員数							
		KPI：5年後に150人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	147人	147人					
		達成率	—	98.0%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	
		担当課評価	条例定数を現状の130人から女性分団20人を計上し、150人へ改正。消防団員を確保する。消防団員数147人の内訳（男性130人・女性17人）
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】	
		消防団の充実強化のため、団員数を条例定数である150人を継続して確保する。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	市民協働課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保	
事業名	地域の絆づくり登録制度	
事業概要	【最終予算額：13,829千円】 【決算額：13,444千円】 災害時の避難に不安がある方（避難行動要支援者）に、あらかじめ市に登録していただき、地域の支援団体とその情報を共有し、平常時の見守りや災害が発生したときの避難支援活動、安否確認に役立てる。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】						
		担当課評価	要支援者名簿を作成し、地域の支援団体62組織中、16組織と協定を締結し、名簿の提供を行った。平成27年度末の登録人数は2,093人。					
		<b>B</b>						
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】						
あらゆる機会を活用して制度説明を行うなど広く理解を求め、登録者数及び地域の支援団体の増加を図る。								
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保	
事業名	泉佐野市少年消防クラブ員の東北被災地訪問（泉佐野市の未来を創る教育事業）	
事業概要	【最終予算額：1,817千円】	
	【決算額：1,800千円】 泉佐野市教育委員会の「未来を紡ぐ子どもの絆」プロジェクトの一環として、泉佐野市少年消防クラブ員の小学生を東北被災地へ派遣し、現地の少年消防クラブ員との交流や復興状況の聞き取りなどの防災学習を実施する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 泉佐野市少年消防クラブ員の市内小学生22名を東日本大震災の被災地へ派遣した。被災地である石巻市では、現地の少年消防クラブ員との交流を図り、地元消防職員から震災時の活動などの説明を受けるなど、防災意識を高めるとともに地域を越えた絆を結ぶことができた。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 震災時の状況から光景が変化しているところもあり、少年消防クラブ員にとっては一見して被災地の状況がリアルに伝わりにくくなってきている状況があるため、訪問時の活動内容について工夫していく必要がある。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	保健センター
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	④食育の推進	
事業名	家庭や学校などにおける食育推進	
事業概要	【最終予算額： 千円】 【決算額： 千円】	
	学校などでの栄養バランスのとれた食事の提供により、健康の増進、体力向上を図るとともに、家庭における朝食の重要性など、食に関する正しい知識の啓発を行う。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：食育の認知度							
		KPI：5年後に80%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	71.5%						数値はアンケート調査で
		達成率	—						
		②目標事項：朝食を毎日食べる人の割合（小中学生）							
		KPI：5年後に95%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	87.7%						数値はアンケート調査で
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	担当課評価 <b>B</b> 平成26年3月に策定された泉佐野市食育推進計画に基づき、庁内推進委員会を設置し、事業を推進している。家庭や学校などにおける食育推進の取り組みとしては、「共食」の重要性や朝食を食べることによる効果を学校などを通して家庭へ啓発したり、ファミリー親子料理教室や子どもクッキングなどを実施した。
		改善 (A)	
	委員会意見	【評価等に対する意見】	
		委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	保健センター
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	④食育の推進	
事業名	地域における食育推進	
事業概要	【最終予算額： 千円】 【決算額： 千円】	
	医師会など医療関係団体による啓蒙活動や、食に関連するボランティア団体との協働による食生活指導などにより、生活習慣病の発症や重症化の予防を図る。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：食育の認知度							
		KPI：5年後に80%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	71.5%						数値はアンケート調査で
		達成率	—						
		②目標事項：朝食を毎日食べる人の割合（小中学生）							
		KPI：5年後に95%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	87.7%						数値はアンケート調査で
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 平成26年3月に策定された泉佐野市食育推進計画に基づき、関係団体と連携を密にとり、事業を推進している。地域における食育推進の取り組みとしては、基本健診時に若年者への啓発や生活習慣病予防のための試食や展示、イベント等における啓発などを実施した。また、特定健診保健指導や介護予防事業等の教室や相談でアドバイスを行った。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 関係団体との連携を強化し、ネットワークを広げることで、市民の視点を取り入れた事業を実施していく。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	農林水産課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	④食育の推進	
事業名	生産者における食育の推進	
事業概要	【最終予算額： 千円】 【決算額： 千円】	
	農業体験などにより、食材についての知識を得るとともに自然の恵みや生産者への感謝の心を育む。また、地元食材の給食への提供などにより地産地消を進める。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】						
		担当課評価	若手農業者グループによる保育所・幼稚園児童に対する芋ほり体験や女性農業者グループによる小学生に対する落花生収穫体験、若手漁業者による小学生に対する地曳網体験の場の提供により、地元食材に対する知識の向上や自然の大切さについての理解に努めた。					
		<b>B</b>						
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】						
		引き続き、各種の体験を通じて地元食材に対する知識の向上や自然の大切さについての理解に努める。						
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分

担当課 環境衛生課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	都市基盤の再構築
具体的施策	⑤エネルギーの地産地消
事業名	泉佐野電力からの電力受給調整
事業概要	【最終予算額： 千円】 【決算額： 千円】
	一般財団法人泉佐野電力を設立し、その後、泉佐野電力から市への電力受給を促進、調整する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：泉佐野電力電気供給量（デマンド値）							
		KPI：5年後に15,000kW							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	5,000kW	4,859kW					
		達成率	—	32.4%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 27年度は、市の施設のうち高圧契約を行った34か所に対するデマンド実績値（最大需要電力）である。想定した現状値に近い実績値となった。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 28年度は、小中学校給食センター、幼稚園3園において高圧契約を追加した。また、平成28年度からの「電力自由化」に伴い、低圧部門でも泉佐野電力からの供給が可能となったために、市関連の約700か所に低圧受給を予定している。泉佐野電力では、民間会社7カ所にも高圧契約が予定されており、28年度では7,000kW弱の最大需要電力供給を目指している。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。



平成 27 年度分

担当課 保健センター

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	⑥高齢者の健康づくり
事業名	健康マイレージ事業
事業概要	【最終予算額：575千円】
	【決算（見込）額：340千円】 健康教室への参加や特定健診・がん検診等の受診など、健康づくりへの取組みをポイント化して記念品等の付与を行い、健康づくりへの積極的な参加促進を図る。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：特定健診受診率							
		KPI：5年後に60%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	31.7%	32.0%					当該年度の2年前の数値
		達成率	—	53.3%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>C</b> 参加者の増加がみられず、制度の周知や参加しやすい工夫が必要である。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 新規の参加者を増加させるために、マイレージ対象講座を行政以外の施設に拡大する。また、記念品の種類を増やすことで、幅広い年代層の参加を呼びかける。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	保健センター
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑥高齢者の健康づくり	
事業名	健康増進事業	
事業概要	【最終予算額：60,472千円】 【決算（見込）額：60,315千円】 健康教室への参加や特定健診・がん検診等の受診など、健康づくりへの取組みをポイント化して記念品等の付与を行い、健康づくりへの積極的な参加促進を図る。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>C</b> 平成27年度から大腸がん検診の無料・個別化に取り組み、受診者数は増加がみられるが、他のがん検診等の受診率は低い状況となっている。また、参考として、平成26年度におけるがん検診受診率は、肺がん検診7.0%、子宮がん検診26.1%、乳がん検診15.6%、胃がん検診4.6%、大腸がん検診7.7%となっている。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 受診機会を増やし、各種検診を同時に受けられるようにするために、集団のセット検診を多数設定し、一部を女性のための「レディース検診」日とする。また、検診の予約や受診相談に応じるコールセンターの設置により、市民の利便性を向上させる。主治医のもとで受診できる個別検診についても従来と同様に医師会と連携を図り、充実させていく。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	高齢介護課・保健センター
-----------	-----	--------------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	⑥高齢者の健康づくり
事業名	福祉関連出張講座の開催
事業概要	【最終予算額： 千円】
	【決算額： 千円】 高齢者が自ら介護予防を意識できるよう出張講座（介護予防、認知症予防、健康づくり、虐待、消費者被害防止、成年後見制度）を開催し、要介護状態にならない生活の支援を図る。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：出張講座実施回数							
		KPI：5年後に75回							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	69回	105回					
		達成率	—	140.0%					
		②目標事項：出張講座受講者数							
		KPI：5年後に3,100人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	2,914人	2,367人					
		達成率	—	76.3%					
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b> 本数値は、高齢介護課・保健センター・地域包括支援センター（社会福祉協議会）にて実施している出張講座の合計数である。利用者は、減少傾向にあり、新規の利用が少ないため、チラシの配付や市の広報での案内を行い、新規の利用者の参加を促していく。
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 今後も利用者増加のため、チラシや広報誌で案内を強化していく。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	市民協働課
-----------	-----	-------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	⑦地域づくり
事業名	防犯推進事業
事業概要	【最終予算額：1,300千円】
	【決算額： 79.6千円】 児童の登下校時の安全見守り活動を展開している地域安全センター（現在8校区）の活性化を図るため、運営費の一部を補助し、安心安全なまちづくりを進めるとともに、市内全小学校（13校区）に地域安全センターの設立を目指す。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	【27年度評価】
		担当課評価 <b>B</b>
	改善（A）	残りの3小学校区に地域安全センター設立をめざす。
	委員会意見	【評価等に対する意見】
委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	市民協働課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑦地域づくり	
事業名	町会連合会の加入促進活動事業への補助金	
事業概要	【最終予算額： 16,372 千円】 【決算額： 15,882 千円】 地域自治の振興並びに住民の相互扶助等を図るため、泉佐野市町会連合会に対して補助金を交付し、同町会連合会は、加入する町会・自治会加入者に対して活動促進袋を配付する。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：町会加入率							
		KPI：5年後に70%以上							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	63.2%	62.6%					
		達成率	—	89.4%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】
		担当課評価 <b>C</b> 事業が始まったばかりで、まだ効果は表れていない。平成27年度の実績としては、81町会中81町会で実施（平成27年1月広報配付時より3回実施）。
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】 引き続き、啓発に取り組み、事業を継続する。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分	担当課	市民協働課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑦地域づくり	
事業名	まちづくりみんなで参加支援事業補助金	
事業概要	【最終予算額： 4,050 千円】 【決算額： 1,727 千円】	
	地域コミュニティ活動の活性化や地域の連帯強化を促進するため、泉佐野市町会連合会に加入する町会・自治会が新たに取り組む事業に対し補助金を交付する。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：町会加入率							
		KPI：5年後に70%以上							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	63.2%	62.6%					
		達成率	—	89.4%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価 (C)	【27年度評価】	即効性のある事業ではない。平成27年度は81町会中36町会に交付。
		担当課評価	
	改善 (A)	【28年度における取り組みなど】	事業の廃止 (H26、27年度限定事業)
委員会意見	委員会評価	【評価等に対する意見】	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分

担当課 高齢介護課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	⑦地域づくり
事業名	泉佐野市三世代同居等支援事業、認知症サポーター養成講座（家族介護継続支援事業）
事業概要	【最終予算額：3000千円】
	【決算額：700千円】 ・泉佐野市内における三世代同居等を促進することで、こどもを安心して産み育てられ、また、高齢者等が安心して暮らせる健康で幸せな住環境を創るために、高齢者世帯と同居又は近居することとされたこども世帯に対して、予算の範囲内でその費用の一部を助成する。 ・認知症になった高齢者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：三世代同居等支援件数							
		KPI：5年後に30件/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	—	7件					
		達成率	—	23.3%					
		②目標事項：認知症サポーター数							
		KPI：5年後に5,500人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	4,144人	4,324人					
		達成率	—	78.6%					
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								
平成27年度	評価（C）	担当課評価	【27年度評価】 本事業は平成26年度から行っているが、事業当初は、助成対象の条件が厳しかったため、該当者がなく、平成26年度は実績が「0」であった。これを受け、平成27年度より一要綱を改正し、条件を緩和して事業を行い、平成27年度は申請者が7名で、助成額が70万円であった。今後も、高齢者等が安心して暮らせる健康で幸せな住環境を創るために、高齢者世帯と同居又は近居推進行っていくものとする。 泉佐野市内の認知症キャラバンメイトと協力し、確実にサポーターを増やしている。平成27年度は、市内の小学校の児童に対し、養成講座できたことがよかった。						
		B							
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 昨年同様、市の広報誌でのお知らせや、市外転入者や市内転居者に対し、市民課での広報チラシの配付などを行い、広く市民に周知し、申請に繋がるよう努力する。 泉佐野市内の認知症キャラバンメイトと協力し、認知症の理解を地域住民に広める活動を行い、今後も認知症サポーターを養成していく							
		【評価等に対する意見】							
委員会意見	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

平成 27 年度分

担当課 まちの活性課

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑦地域づくり	
事業名	地域資源ブランディング事業	
事業概要	地域資源ブランディング化推進事業	
	【最終予算額：1,750千円】	【決算額：1,750千円】見込
地域の魅力を再発見し、そのことにより郷土愛を育成することを目的に、地域に伝わる伝承民話をモチーフにした創生神楽を、地域住民と協働して創作する。一方、観光庁は観光のカテゴリーとして「神楽観光」を推奨しており、これら二点を結びつけるべく外部専門アドバイザーを招聘し、地域住民が主体となって当市にある幾多の民話や伝説をストーリーにした神楽の創生を支援することで、より一層の郷土愛を育み、定住促進を図り、また創生神楽鑑賞を目的とした観光客の誘客を図る。		

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：地域づくり活動団体参加者数							
		KPI：5年後に150人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	68人	111人					
		達成率	—	74.0%					
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	担当課評価	【27年度評価】 当該事業は本年度で2年目となるも、1年目の事業期間は短期であったため、当該事業は進み出したところである。ただそんな中でも、神楽の認知を広めるため、神楽の上演会を開催したり、また神楽の出演者である子どもの募集をして参加者を募り、神楽演舞の練習会を定期的に行ったりし、具体的に事業を進めている。
		B	
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 今後も当該事業を進めることで、地域の歴史と伝統を活かした「創生神楽」の創作に向けた支援を続けていく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。



平成 27 年度分	担当課	障害福祉総務課
-----------	-----	---------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮せるまちづくり
具体的施策	⑦地域づくり
事業名	地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）
事業概要	【最終予算額： 千円】 【決算額： 千円】 地区福祉委員会が主催する高齢者や障害者等への見守り訪問活動【個別支援活動】や孤立防止や地域での仲間づくり、介護予防等の目的で開催する交流会や高齢者サロン活動【グループ支援活動】の支援を行う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：個別支援活動実施世帯数							
		KPI：5年後に2,100世帯							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	1,925世帯	集計中					
		達成率	—						
		②目標事項：グループ支援活動回数							
		KPI：5年後に1,890世帯/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考
		数値	1,775回/年	集計中					
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	備考		
数値									
達成率	—								

平成27年度	評価（C）	担当課評価	【27年度評価】 高齢化の進行や障害者の地域移行が進む中で、地区福祉委員会の見守り活動は、地域で支援を必要とする人の孤立死・引きもりなどの防止や福祉課題の早期発見や課題の困難化の予防などに非常に効果を上げているといえる。個別支援実施世帯数やグループ支援活動回数は、概ね昨年と同様の数値で推移しており、要支援者にとっても、きめ細かで充実した支援が行われた。
		B	
	改善（A）	【28年度における取り組みなど】 今後、地域で生活する高齢者や障害者は増加していくことが見込まれることから、現状での要支援者への支援活動をより充実させていくとともに、新たな要支援者の発見の仕組みを強化していく必要がある。また、併せて、これらの活動を継続的に実施していくためには、活動を支える地域でのボランティアなどの担い手の育成についても、推進していくことが求められる。市としては、このようなことも踏まえ、引き続き地区福祉委員会の活動の支援を行っていく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。